



きずな

初のオンライン全国大会佐賀大会 無事終了!

全国公立学校教頭会

電話： 03-3436-6868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jp

HP： <http://www.kyotokai.jp>

令和3年8月3日・4日の2日間にわたり、第63回全国公立学校教頭会研究大会 佐賀大会が行われました。今大会は、本会初のオンラインによる開催となりました。第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を踏まえ、サブテーマを「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」と設定し、研究を進めてまいりました。

今号は、2日目に行われました、分科会協議の概要をまとめました。オンラインのよさを生かし、全国の先生方とつながり、活発な協議が行われました。(詳細なまとめは、「佐賀県公立学校教頭会ホームページに掲載されておりますので、ご覧ください。http://sagapri.xsrv.jp/zenkoukyosaga_syuroku_hp/syuroku_index.html)

<p>第1 A分科会「教育課程に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と創造性を育む学校を目指して <ul style="list-style-type: none"> - 「教頭力」向上のために- 神奈川県横須賀市立馬堀小学校 塩野谷 純香 ・現代的諸課題に対応するための副校長・教頭会の組織的取組 <ul style="list-style-type: none"> - 「汎用性」と「独自性」からの分析を通して- 福岡県大野城市立御陵中学校 藤田 天平 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>教員の指導力向上を図り、人材育成を進めていくために、地区教頭会として、指導マニュアルを開発したり、組織的な対応を改善したりして取り組んできた。その開発や各学校での実践をとおして、教頭の指導力向上も図ってきた。今後も学習指導要領の改訂や地区の連携を深め、よりよい学校運営を進めて目指していく。</p>
<p>第1 B分科会「教育課程に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を担う力を育む保幼小・小中接続のあり方 <ul style="list-style-type: none"> - 0歳から15歳までの「学びのつながり」づくり- 福井県敦賀市立角鹿小中学校 小島 義和 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みの充実について-「北谷町スマイルプログラム」を活用した支持的風土のある学年・学級づくりを通して- 沖縄県北谷町立北谷小学校 井口 郁男 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>幼保小接続事業として、視覚化・体系化・組織化され、スムーズに接続できるよう、取り組まれている。さらに合同研修の確保、連携体制の構築などを進め、結びつきを強くしていく必要がある。人間関係プログラムによって、児童理解を深め、学級づくりに生かすことで、授業改善を進めていく有効性の高い取り組みである。今後も業務分担などの体制を整え、持続可能な取り組みにしていくことが重要である。</p>
<p>第2分科会「子どもの発達に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携、地域社会との連携・協働を通して、社会貢献できる生徒の資質・能力を高めるためのカリキュラムマネジメントの確立 京都府京都市立桃山中学校 井上 俊幸 ・組織的な小中連携の在り方と教頭の役割 -各中学校区小中連携構想図等を活用した学びと育ちの滑らかな接続を目指して- 熊本県芦北町立田浦小学校 今脇 三仁 ・児童生徒の豊かな人間性の育成 -地域との連携を深める取組を通して- 佐賀県鳥栖市立田代中学校 末次 知子 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>小中連携構想図として視覚化し、地域にも発信してビジョンの共有化を図っているのは大変有効である。地域の宝を地域で育てるという意識を高めていってほしい。そのために、目標や教育課程のみならず、場や時間の共有化を進めていくことも必要である。コミュニティスクールの取り組みを充実していくためには、地域との互惠関係を築き、どのように学校経営に参画してもらうかが重要である。目標・情報・成果について共有しながら、さまざまな団体と連携していく役割を管理職が整備していくようにする。</p>
<p>第3分科会「教育環境整備に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的活動による安心・安全な学校づくりと教頭の関わりについて -「楽しく安全な学校づくりサミット」の取組をとおして- 鳥取県米子市立福生中学校 森脇 宏 ・学校の教育的環境整備に教頭としてどのように関わるべきか -業務改善の推進と生徒の資質・能力の向上を目指して- 鹿児島県鹿児島市立河頭中学校 田島 久仁 ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることのできる環境整備に係る取組 -防災体制づくりの視点を通して- 佐賀県佐賀市立久保泉小学校 浦本 奈美 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>人間関係作りのために、縦割り班活動などを活用し、上学年へのあこがれをもたせたり、お互いの良さを見つけて伝え合う活動を取り入れたりする。幼保小中・保護者・地域住民との連携には、アンテナを高くして、情報を収集する必要がある。コロナ禍の今だからこそ、学校の業務を見直し、教育界にも scrap & buildを進めるべきである。対策すべき災害には、地域差がある。現在、「100年に1度の災害」という言葉を耳にすることも多くなってきた。学校・地域・行政との連携は不可欠である。</p>

<p>第4分科会「組織・運営に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームとして推進するカリキュラム・マネジメント -組織力の向上と人材育成における教頭の役割- 北海道室蘭市立天神小学校 難波 茂伸 ・コミュニティスクール導入期の組織づくりと教頭の役割 -A 中学校区コミュニティスクールの実践を検証して- 宮崎県延岡市立東海小学校 篠原 光教 ・非常変災等における危機管理体制と教頭の役割 -武雄市内小・中学校での危機管理体制の見直しを通して- 佐賀県武雄市立武雄中学校 宮崎 武司 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>学校の組織力の向上や人材育成のために、各地区の教頭会で組織としてのカリキュラム・マネジメントの推進、地域に応じたコミュニティスクールの導入及び市関係機関等と連携した危機管理体制の確立などを取り組んできた。今後は、各自の学校の状況を把握し、どのように取り組んでいくのかを考えていく必要がある。そのために「人を知る」「学校を知る」「地域を知る」ことが大切である。</p>
<p>第5 A分科会「教職員の専門性に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識高揚を図るための副校長としての関わり -教職員がやりがいを感じるための取組を通して- 岩手県盛岡市立城東中学校 佐藤 公一 ・教職員の資質向上を図り、魅力ある学校をつくるための教頭の役割 -若手教師の資質向上を図るための工夫- 長崎県長崎市立仁田迫小学校 播本 文貴 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>学校行事や業務の見直しをしていることを保護者や地域に理解を求めていく必要がある。副校長・教頭としては業務分担の適正化や経営方針の浸透など、組織的に取り組めるようにする。若手教員がバランスよく資質・能力が高まるように職層を生かして育成を進めたい。日常的にコミュニケーションを取れるような雰囲気づくりを大事にしたい。</p>
<p>第5 B分科会「教職員の専門性に関する課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力・授業力を高める仕組みを整えるための教頭の関わり-国際バカロレア教育認定校を目指した取組を通して- 高知県香美市立大宮小学校 中島 佳史 ・教職員の指導力向上を目指す協働体制の構築 -教職員の力量を高めるための教頭の役割- 佐賀県みやき町立中原中学校 杠 幸世 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>校務分掌、各業務分担など負担軽減を進め、働き方改革と人材育成のバランスをとり、教員一人一人の資質と能力が高められるシステムを構築していく。その際に重要な視点は、学校経営方針、重点取り組みや具体的目標、学校の規模や文化に合わせたシステムとなるように配慮していくことが重要である。学校評価や人事評価を効果的に活用してほしい。</p>
<p>第6分科会「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある副校長職・教頭職の在り方 -学校の新しい生活様式と働き方改革- 講師 埼玉大学教育学部教育実践総合センター教職大学院 教授 安原 輝彦 担当 全国公立学校教頭会 総務・調査部 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>学校の実態に合わせて、そもそも一番大切なことは何か、本来すべきこととしてもよいこと、教員の専門性に生かすために使っている時間を大切するために、職員間のコミュニケーションをとって共通理解していく必要がある。副校長・教頭として共有や共感が生まれるように、教職員の意識を一つにする。いつでも教員の相談を受け入れる姿勢で、取り組んでほしい。</p>
<p>特別分科会 I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな生活様式に基づく学校の取組と GIGA スクール構想における副校長や教頭の役割 講師 放送大学教授(情報学) 中川 一史 担当 全国公立学校教頭会 研究部 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>「GIGA 元年」として、より積極的に ICT を活用した学習場面を取り入れていくようにする。促進のカギは、環境と制度とスキルと活用の4つの視点で考えていくとよい。この視点を関連付けながら整備を進めていく。特に、学習では、探究のプロセスに合わせて効果的に活用してほしい。ICT のメリットを十分に生かして取り組んでほしい。</p>
<p>特別分科会 II</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICT を活用した業務改善に向けての教頭の役割と指導性 講師 佐賀県武雄市教育委員会 新たな学校づくり推進室教育監 徳永 貞康 ②人を育て組織を活性化する人事評価 -学校経営パートナーとしての副校長・教頭の役割と指導性の発揮- 講師 佐賀県佐賀市立本庄小学校 校長 富吉 猛 担当 特別II分科会運営責任者 浦 貴仁 	<p>【分科会のまとめ】</p> <p>各学校における ICT の活用状況について情報共有することによって、授業での活用状況や校内研修の在り方を効果的に実施していくための取組について協議することができた。1980年代に教育の情報化が始まっているが、その時、思うようには改善が進んでいなかった状況にならないよう、教員の意識改革を図り、活用を進めていくよう指導性を発揮する。</p> <p>教員を育成するためには、自己の職務目標を納得しながら設定して取り組ませていくことが重要である。管理職としてコミュニケーションを深め、日頃から信頼関係を築いていくことが組織の活性化につながっていく。</p>

